地元施設を活用した体験活動の先進例

地元施設を利用して実施！

江の川カヌー探検隊！

三次市立田幸小学校　　対象学年（５年）

【体験活動場所・宿泊場所】　三次市・カヌー公園さくぎ

【実施期間】平成２６年７月２５日（金）～７月２８日（月）

【学校紹介】

○　本校は学校教育目標を,「ふるさとに学び心豊かにたくましく生きるポプラっ子の育成」と設定し，地域の方々の協力を得ながら「ひと・もの・こと・自然」とのかかわり合いを大切にした多様な体験活動を展開している。そして，その体験を通して自分のよさや可能性に気づき，自己肯定感を高めながら自分の描いた夢に向かって意欲的に学ぶ姿を大切にし,「田幸で学んでよかった」と思える教育内容の創造に努めている。校区は，梨やぶどうの生産等農業が盛んな地域で世羅台地から流れ出た美波羅川には，メジロやカワセミのほか，タゲリ等の珍しい野鳥も多く生息している。こうした豊かな自然に恵まれながらも高齢化や少子化等の課題を抱える中で，誰もが安心して幸せに暮らせる住みよい地域社会づくりに向け，地域住民による積極的な取組が行われている。本校では，ふるさと田幸での体験を基盤に研究主題を「いのちを大切にし，主体的に生きる力を育む道徳教育の創造～家庭，地域との連携を通して～」とし，道徳教育を柱とした研究を続けている。

○　校長名：深田　真規子

○　児童数（学級数）：５９名（６学級）

○　所在地：三次市大田幸町１６００番地

○　電話番号：０８２４－６６－１１６０

【体験活動のねらい】

○　地元施設を利用して，ふるさと三次の自然や文化，産業等にかかる体験活動を通して，自然のすばらしさと大切さ，自然に対する畏敬の念を育むとともに，自然を生かし，自然とともに生活していくことの楽しさや意義を理解する。

○　集団宿泊活動を通して，自主・自律，思いやり，協調性，規範意識等の道徳性を高める。

○　地域に暮らす人々との体験活動による交流を通して，人々が協力して自然や伝統的な文化・産業を守り，努力や工夫を重ねて生活している思いを感じ取り，地域社会の一員とし

てよりよく生きていこうとする態度を養う。

【日程（活動プログラム）】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	朝の活動		朝食	午前の活動			昼食		午後の活動				夕食	夜の活動			
第1日					入所式オリエンテーション	敷地内散策	昼食		カヌー体験①	野外炊事①			夕食	入浴	振返り		
第2日	起床清掃朝のつどい	朝食	洗濯	活動準備	沢登り体験		昼食		江の川の漁体験			活動準備	入浴	夕食	星の観察	振返り	
第3日	起床清掃朝のつどい	朝食	洗濯	作木ツアー（常清滝，シイタケ栽培見学）			昼食		作木ツアー（殿敷，ブッポウソウ）	野外炊事②			夕食	入浴	振返り		
第4日	起床清掃朝のつどい	朝食	荷物整理	施設清掃	中国電力発電所見学	カヌー体験②	昼食		川遊び	アダプト活動	退所式						

【参加児童の学年別，男女別数】

学年	男子	女子	合計
5学年	5	6	11
総計	5	6	11

【地元施設を活用した体験活動を実施する上でのポイント】

○ 事前に現地に何度も足を運び，下見を行った。安全確認，児童の動線の確認，事前学習での施設の活用等，下見を行うことで分かってきたことがあり，重要な点であった。また，現地スタッフの方と実際会って打ち合わせを進める事で信頼関係を構築できた。

○ 作木地域の方とつながりのある職員がおり，つながりを生かしたプログラムを作成することができた。「ふるさと田幸」から「ふるさと三次」へと子どもたちの視野を広げさせるためにも，活動する地元の方とのつながりを生かすことは重要である。

○ 本校から車で３０分という距離なので，職員全員が活動に関わり，協力して目の行き届いた指導を行うことができた。安全面においても多くの人数での指導は効果的であった。

○ 成果発表会には，お世話になった施設の所長さんが来て下さった。体験活動で学んだことをお世話になった方の前で発表できることが，児童の発表への意欲を上げ，充実した成果発表会となった。後日，感想を送って下さり，児童の活動を評価していただいた。現地の方に成長を認めていただいたことは，児童にとって大きな自信となった。

○ 体験活動後にもカヌー公園へ足を運ぶ児童がいる。学校で学習したことを家族や友人の前で自慢し，「ふるさと三次」を愛する心が育っている。地元施設活用ならではの取組の成果である。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
６月	【環境学習】 ・　課題設定 作木の町の特色について，カヌー公園についてそれぞれ調べ，活動計画を考える。 ・　課題別調査 課題別に分かれ，その活動を通してどのような力をつけたいか，ねらいを設定する。	4	総合的な学習の時間	教室	担任
７月	【道徳】１－（２） 「よいあいさつがよい出会いをつくる」	1	道徳	教室	担任
	【調理実習】 サラダ作り	1	家庭科	家庭科室	担任
	【事前活動】 班作り，役割分担，目標設定	2	学級	教室	担任
7月25日 ～ 7月28日	【野外活動及び見学】 ・　カヌー体験２回 ・　野外炊事　２回 ・　沢登り ・　江の川の漁体験 ・　星の観察 ・　作木ツアー （常清滝，椎茸農園，殿敷，ブッポウソウ小屋） ・　中国電力熊見発電所見学 ・　川遊び	２４	学校行事	江の川 カヌー公園さくぎ	担任 全職員 現地スタッフ インストラクター 江の川漁師の方 椎茸農園の方
９月 ～ １０月	【事後学習】 ・　お礼状の作成 ・　活動のまとめ ・　活動報告書を作ろう。	2 2	総合的な学習の時間 国語	教室	担任
	【道徳】３－（２） 「台湾からの転入生」	1	道徳	教室	担任
	【成果発表会】 ・　スライドショーを作ろう。 ・　発表方法を工夫しよう。 ・　発表しよう。	8	総合的な学習の時間	教室 体育館	担任

【体験活動の概要】

○カヌー体験

インストラクターの指導のもと，カヌーに乗って江の川を往来する活動を行った。まず，川に対する知識，緊急時の対応等を学んだ後，陸上で前漕ぎ，後ろ漕ぎ等，実際にパドルを持ち操作した。一通り学んだ後，カヌーに乗って本流に出発し，雄大な自然の中を進んでいった。

児童は自ら目標を設定し自分がどういう力をつけたいのか確認した上で，その目標に向かって活動した。また「関わり合い」の中で学ぶというねらいにおいて，インストラクターの方と積極的に関わろうとした。教師は言われたことを繰り返し言わない，活動のリーダーに進行を任せる等，児童が主体性を持って取り組むように留意した。

○沢登り体験（シャワークライミング）

インストラクターの指導のもと，流れに逆らって川を上っていくダイナミックな活動を行った。まず陸上で安全装備を装着し川に入る時の危険について学んだ。川に入り自分の足で進んでいくと，最初はすねほどの水位も次第に胸ほどに達するような場所もあった。上流に進むほど流れは速くなり次第に体力も奪われ，皆のペースについていけない児童も出てきた。今回の活動のねらいである「協力する」「最後までやりぬく」を指導者が意識して声掛けを行った。すると，ゴールするころには，お互いに声を掛け合って手を差しのべたり，おくれた友達を待ったりする等，自然に仲間の事を思いやる姿が見られるようになった。ゴールの滝にたどり着いた時，子どもたちは大きな歓声をあげ，最後までやりぬいた自分たちのことを喜び合っていた。

○江の川の漁体験

地元漁師の方に，江の川に生息している魚や漁についてのお話を聞いた。その後，投網体験，アユのつかみ取り体験を行った。

本校では道徳において「いのち育みプログラム」を作成して，道徳の時間と他の教科，活動との関連を図っている。アユのつかみ取りを行って自ら調理をし，「命をいただく」体験から，命のつながりを実感することができた。さらに，自他の命のみならず，動植物の命も大切にしようとする心情が深まった。

〇作木ツアー

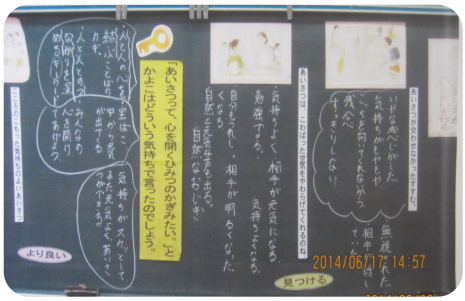
広島県の名勝である「常清滝」では，自然の雄大さに触れることができ，椎茸の農園では，ふるさとでこだわりをもっておいしい椎茸を栽培されている農家の方に生椎茸をいただいた。また，絶滅危惧種である「ブッポウソウ」の保護運動について話を聞いたり，「殿敷」では，作木でもっとも古い民家でお弁当を食べ，むかしの家での暮らしを想像したりした。大イチョウの木，蓮の池等，ふるさとの「ひと・もの・自然・文化」を知る一日体験ツアーを楽しむことができた。

【体験活動の効果を高めるための取組みのポイント（事前･事後学習）】

事前活動

〇（道徳）「よいあいさつがよい出会いをつくる」　１－（２）

多くの人と関わる本体験活動において基本であるあいさつについて，原点に立ち返り，あいさつの持つ力，なぜあいさつをするのか等，教材を通じて考えを深めた。児童の感想から「あいさつって心と心をつなぐきっかけになるんだね。」「相手の心も自分の心も開く秘密のカギみたい。自分も気持ちのいいあいさつを心がけよう。」等，気持ちのよいあいさつをしようという気持ちの高まりが感じられた。



事後活動

〇（総合的な学習の時間，学校行事）工夫して発表しよう。

「江の川カヌー探検隊」

学習発表会で体験活動のまとめを発表した。「作木の素晴らしさと自分たちの成長。これら２点が伝わる発表をしよう！」を目標にクラスで協力して取り組んだ。「成長した姿を見せる

ことがお世話になった方への恩返しになる。」と児童が主体的に取り組み始めた。スライドを作成したり，発表の構成や表現方法を工夫したりし，発表会に向けて一つになっていった。地域，保護者の方からも良い評価を頂き，それが児童の自信につながった。宿泊施設の所長さんが発表会を見に来てくださり，発表に対する評価と激励の手紙をくださった。クラスの宝物として大切に掲示している。

【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

○　事前に現地に下見に行き，施設の様子や活動場所の確認を行った。

○　下見の際に危険場所の確認をし，現地スタッフの話を参考にリスクマネジメントを行った。

○　活動プログラムの作成にあたって，学校，施設，指導者で直接会って協議し，調整を図った。

○　川での活動ということで，増水時の対応，雨天時の対応，蜂等の害虫への対応等，現地スタッフと協議した。

○　熱中症対策としてスポーツドリンクの準備，お茶の準備をした。また，事前の打ち合わせで給水のタイミングを養護教諭と確認し，担任以外の教員で適宜児童に給水した。

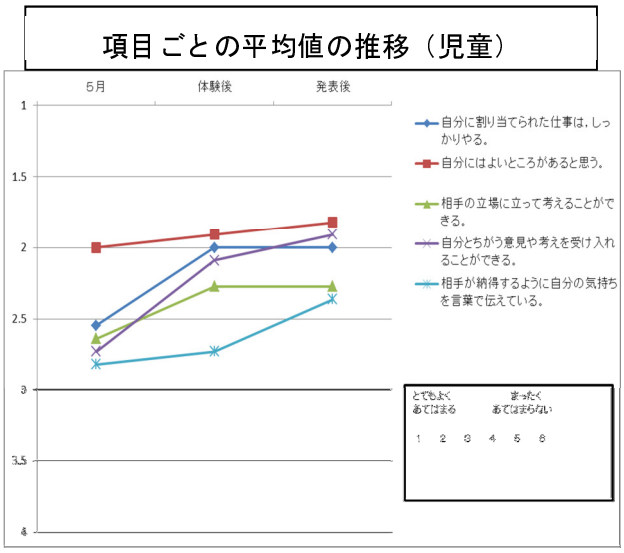
○　活動ごとに健康観察を行い，児童の体調の変化に留意した。

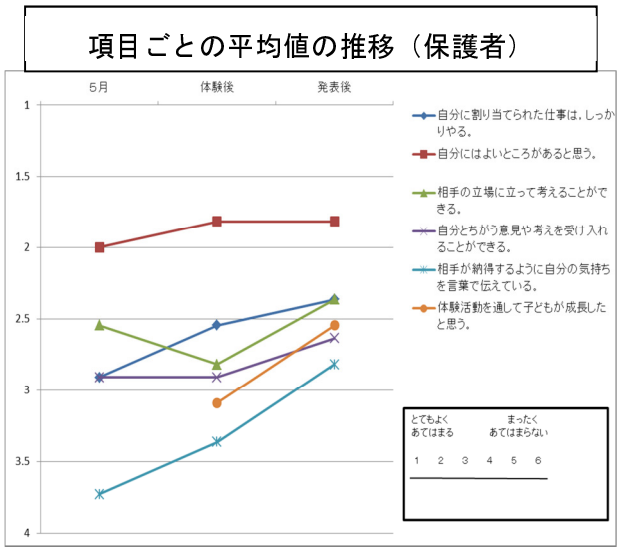
【体験活動の成果と課題】

＜成果＞

○　３回のアンケートの平均値の推移において分析を行った結果，全ての項目において，向上していることが分かった。「みんなで頑張ったからできた。」「帰宅した時の顔がイキイキして，自信がある強さが出ていたように見えました。」「手伝いをよくし，自分から気づくようになりました。」等と児童も保護者も体験活動や成果発表を通して成長を感じられる有意義な活動であったことがうかがえる。

○　本学級は，かねてから「自分の意思を言葉で伝えること」を苦手としている児童が多かった。これまで，このことに重点を置いて指導してきたが，中々向上してこなかった。ところが，体験活動や成果発表後のアンケートでは「相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えている」の項目が一番大きく伸びていた。その要因として，教室で自信を持てなかった児童が体験を通じてやりきった満足感や達成感から自信を持ち，「活動したことをお家の人や他学年に伝えたい。」と意欲を持って主体的に取り組むようになったことが挙げられる。このことが学びを大きくしたものと考えられる。





○　本校では学校外での３泊４日の宿泊体験活動は初めての取組であった。そのため，児童はもちろん，保護者も長期の宿泊に対する不安が多かった。そこで，長期の宿泊体験だからこそできる「家庭と体験学習をつなぐ取組」を考えた。３日目の夜，振り返りの時間にそれぞれの保護者にあらかじめ書いておいてもらった手紙をサプライズで児童一人一人に手渡した。渡した瞬間，じっと手紙を見つめる児童，うれしくて泣き出してしまう児童，感謝の気持ちを口にする児童等，様々な様子が見られた。そして，手紙を読んだ後，自分の親に向けて活動の様子を伝える手紙を書いたが，どの子も真剣な眼差しで感謝の気持ちを綴っていた。その時の思いを後日振り返らせると，「あの時は，驚いた。」「いつもは当たり前のようにいてくれるけど，当たり前じゃないんだ。」「たくさん思ってくれていることが分かってうれしかった。」等，児童はまたうれしそうな笑顔になっていた。

＜課題＞

● 体験活動で身に付けた力を継続させていくことが必要である。そのためには，体験活動で学んだ事をキーワードとして残し，学級での学習や生活の中でフィードバックできるよう工夫していき，さらに学びを深めていくことが重要である。

● 「今度は自分たちの暮らしている地域のことをもっと知りたい。」「地域のためにできることはないか考え，役立つことを何かをしたい。」「地域の良さを発信していきたい。」等，体験活動をして感じたことを児童なりに実行していけるようなプログラムを仕組んでいくことが重要である。